

一般社団法人

山梨県言語聴覚士会

NEWS

2018 Feb

vol. 40

◀目次▶P1…新年の挨拶 P2~4…合同学術大会 P5…失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会・秋期会長会議
P6~7…つどい・地域部アンケート結果 P8…失語症友の会設立に向けて・地域部研修会 P9…研修会・講演会
P10…理事会報告 P11…各局からのお知らせ P12…編集後記

新年の挨拶

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史
(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2018年が会員の皆様にとって素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年も当会は学術・人材育成活動をはじめ職能活動や広報活動など充実した事業を展開してきました。

また、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会との良好な連携の基盤である山梨県リハビリテーション専門職団体協議会の「訪問リハビリテーション」「地域支援事業」「災害対策支援」「特別支援教育」の4つの委員会事業にも積極的に参加していただき感謝申し上げます。

各都道府県における理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の連携は平成26年4月1日より一部改正された通知「介護予防市町村支援事業の実施について」(平成18年3月31日老発第0331025号)によって介護市町村事業にリハビリテーション専門職の参画を促進する目的で全国三協会(日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会)の強力な働きかけが契機となりました。今ではほとんどの都道府県において3土会の連携が構築され、地域リハビリテーション活動支援事業(介護予防事業、地域ケア会議など)への関与が盛んに行われております。山梨県においては平成24年より3土会の意見交換が開始され、平成27年8月には山梨県リハビリテーション専門職団体協議会を設立し事業を展開しておりますが、本協議会のように複数の委員会が設置され、リハビリテーション専門職が職種や職場の垣根を越えて集い、県の主管する課と協働で事業を展開する県は他には例がないことを誇りに思っております。さらに12月2日・3日には第2回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が開催され681名(2日間延べ人数)のセラピストが一堂に集い活発な意見交換のもと成功裏に終わられたことは非常に喜ばしいことです。今回は当会が事務局を担当するという重責がありましたが1年8ヶ月の準備期間を経て大会を成功させたことは大きな自信と財産となることでしょう。大会に際して事前準備から企画、運営にご尽力を賜りました運営委員、実行委員、査読委員の皆様にご挨拶申し上げます。

さて、今年は介護報酬・診療報酬の同時改定に加え、第7次医療計画・第7期介護保険事業計画・第3期医療費適正化計画が行われます。史上初めてのトリプル計画・ダブル改定によって病院病床の再編成や慢性期から在宅医療へのシフト、介護予防の推進、自立支援に資するサービスへの転換、医療介護連携の確立など地域包括ケアシステムの推進に向けた動きに拍車がかかります。我々、言語聴覚士個人としてはこのような施策の流れを理解した上で目の前の患者様に今考えられる最適な言語聴覚療法を提供しつつ生活を見据えた関わり方が求められます。また、地域職能団体としては関連団体と連携して地域リハビリテーション活動支援事業に資する人材の育成はもとより地域の失語症友の会などの地域活動組織への支援や協力などを通じてコミュニケーション障害者が利用しやすいコミュニティ活動を創り出すことも重要な役割となります。平成30年度より全国の自治体で地域生活支援事業として実施される失語症者向け意思疎通支援者養成事業への関与や後述する山梨県言語聴覚士会失語症友の会「ふじやま」の設立など当会にしかできない活動にも挑戦していこうと思っております。

今年の干支の「戌」の特徴は“勤勉で努力家”と言われております。多くの会員が知識を蓄えるために最適な一年であること祈念いたします。

本年も当会の活動にご理解をいただき、積極的な参加をお願い申し上げます。



第2回 山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会 開催報告

山梨県リハビリテーション専門職団体協議会 会長 中村 晴江
(一般社団法人山梨県言語聴覚士会)

平成29年12月2日(土)～3日(日)にアピオにて「飛躍～リハビリテーション未来の創生～」のテーマのもと第2回山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会を開催いたしました。山梨県リハビリテーション専門職団体協議会主催として初めて開催された本大会は、言語聴覚士会が当番幹事であり、当会の内山量史会長を大会長、赤池三紀子副会長を実行委員長とし2年前から準備を始めて参りました。会員数も理学療法士会・作業療法士会に比べ圧倒的に少ない本土会ですが、三士会計83名の実行委員のご協力を得て成功裏に終了することができました。

大会期間中は天候にも恵まれ、述べ680名を超える会員・学生・非会員の方にご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。まずは、ご参加・ご支援をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

本大会では向井美恵先生(昭和大学名誉教授、朝日大学客員教授)、内藤栄一先生(脳情報通信融合研究センター 研究マネージャー)、による特別講演に加え、教育講演では県内における「災害リハビリテーション」、「訪問リハビリテーション」、「認知症」、「地域支援事業」の各分野の最前線で活躍されている会員から、活動実績や今後の課題などを報告いただきました。さらに日頃の臨床・研究成果を中心とした一般演題39演題に対しても活発なご討議をいただき、明日からの臨床に繋げていく多くのヒントを得ることができました。



さらに本大会に先駆けて開催いたしました市民公開講座では、「認知症と自動車運転」をテーマに三村将先生(慶応義塾大学 教授)にご講演いただき、関連職種・一般県民の方も多くご参加いただきました。また、市民公開講座に合わせて三士会で作成しました「認知症予防リーフレット」は、大きく新聞でも報道され県民の関心も高く、会場に足を運ばなかった多くの方から配布のご希望があり、事務局も嬉しい悲鳴があがりました。

本大会は、実行委員をはじめ発表者・参加者も含め、若い世代の会員の活躍が目立った会であったと思います。まさに、「リハビリテーション未来の創生」を託すにたる、心強い息吹を感じました。また、プログラムも充実しており、非常に内容の濃い大会であったとのお褒めの言葉を講師の先生方からいただきました。

3年に一度の開催となる合同学会大会であり、歩み始めたばかりの会ではありますが、多くの方々と有意義な時間を共有できましたこと、とてもありがたく、嬉しく感じております。そして、山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会が今後も、リハビリテーションを必要としているすべての方々の支援に結びつきますことを祈念しております。

末筆ながら、講演をお引き受けいただいた講師の先生方、ご後援頂いた諸団体、発表者の方々、大会の質の向上を目指してご尽力いただきました査読委員、大会を成功に導いてくださった内山大会長をはじめ実行委員の皆様へ深く感謝いたします。



市民公開講座開催報告

企画局 プログラム企画 赤池 洋（山梨大学医学部附属病院）

平成 29 年 11 月 22 日、合同学術大会に先立ちまして市民公開講座が山梨県立文学館講堂にて開催されました。当日は 160 名を超える一般市民や医療関係者、介護・福祉関係者が参加され、参加者には言語聴覚士、理学療法士、作業療法士の各々の専門的な立場から認知症予防について助言するリーフレットが配布されました。



講座では「認知症と自動車運転」をテーマに慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室教授の三村将先生よりご講演を頂きました。講演では認知症の正しい理解と運転について、さらに改正道路交通法や医師による任意届け出制度など最新の知見につきまして大変わかりやすくご説明して頂きました。参加者からは「認知症というくりだけでなくそれぞれの状態によって問題と対応を考えていくという言葉が印象的だった」「運転免許をもっている高齢者のリスクやそれに対する配慮などを学ぶことができた」など多くのご意見が聞かれました。

今回の講座を通してリハ専門職としても一般市民の皆様にも認知症を正しく理解して頂くための支援が必要だと実感することが出来ました。

合同学術大会参加記

今回は実行委員として準備・運営に携わった先生方より一言いただきました

甲府城南病院 窪田 光

今回、実行委員として、400 名を超える参加者の大会の財務管理をする事の責任の重さを実感しました。普段関わる機会の少ない多職種の方と協力して大会を成功させる事ができ、大変貴重な経験ができました。

湯村温泉病院 岡 大樹

レセプション部として参加しました。打ち合わせ通りにならない場面も多く、その都度他県士会のスタッフと連絡をとり合い、臨機応変に対応する必要がありました。大変貴重な経験させていただき、ありがとうございました。

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 山田 典子

渉外部として参加しました。講師送迎や接待など、あまり経験がない事でしたが、先輩方に教えて頂き役目を果たすことができました。他の県士会の方と仕事ができたと新鮮で、とても勉強になりました。

甲州リハビリテーション病院 今井 美紀

会場運営部として、D 会場の設置・運営を行いました。初めて顔を合わす方が殆どの中、声をかけ合い、協力しながら準備～当日を迎えることができました。他職種間で協力して大会に臨む貴重な機会となりました。

甲府共立病院 手塚 仁美

今回初めて実行委員として参加をさせて頂きました。私はアナウンスを中心に会場運営を行ないました。当日は慌ただしく大変でもありましたが、無事に運営が進められたことや、他病院の先生方と交流や協力できたことで達成感がありました。



合同学術大会 発表後記

甲府城南病院 脇坂 英寿

がん患者の自宅復帰に向けた取り組みについて発表致しました。他職種からも質問やご意見を頂き視点を広げられたことは、合同学術大会ならではだと感じています。発表にあたり、実行委員、査読委員の方々など多くの皆様のご協力を頂き深く感謝申し上げます。



春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 安富 朋子

脳血管疾患患者の咳嗽力について検討し、発表しました。当日は想像以上の会場の広さに圧倒されましたが、在宅に向けた視点など、様々な意見をいただくことができ、自身の視野が広がるとともに、呼吸機能へアプローチすることの重要性を実感しました。



しらゆり訪問看護ステーション 藤巻 千春

在宅リハに携わって4年。そろそろ私にも何か皆様にお伝え出来る事があるのではと思い、今回発表させて頂きました。進行性難病の方への長期的な介入、多職種連携から学んだ事、在宅STの役割等、STとしての自分を見直すとても良い機会になりました。



甲府共立診療所 天野 絵理

この度、三士会合同学術大会で発表させていただく機会をいただき、ありがとうございました。他病院の方々に質問を頂き自己の学びを深めることができました。しかし、伝えきれない、説明しきれないことがあり、力不足を痛感しました。その思いを糧に、今後の臨床に生かしていきたいです。



湯村温泉病院 池神 多加子

「多職種連携」を軸に高次脳機能障害者の就労支援におけるリハ専門職の役割について発表をさせていただきました。三士会合同この意見交換ができ、新たな視点を得る場となりました。今まで以上に積極的、且つ柔軟に多職種との連携を深めていきたいと思えます。



恵信甲府病院 坂本 楓

今回「唾液の効率的な分泌方法」というタイトルで発表を行い、多くの先生方にご指導を頂く機会を得ることができました。当日は、非常に緊張してしまい練習通りには行きませんでした。今回の経験を今後の躍進に繋げていけたらと思えます。



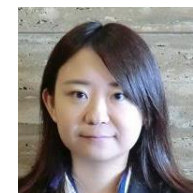
恵信甲府病院 藤原 裕己

今回「構音障害者の発話の聴き取りにおける正確性の検証および聴取方法の検討」という表題で発表を行いました。質疑応答では多くの先生方からご質問を頂き、新たな気づきや、自分自身の考えを深めることができました。この経験を今後の臨床に活かしていきたいと思えます。



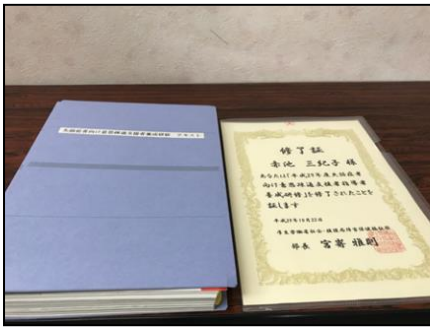
甲州リハビリテーション病院 赤池 絢

「意味性ジャルゴンを認めた失語症の一例」について発表致しました。発話分析を行うことで初めて気づくことが多くあり、改めて日々の臨床の振り返りと細かな観察が重要であることを学ぶことができました。スキルアップにも繋がる貴重な経験となりました。



「失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修」について

湯村温泉病院 赤池 三紀子



平成 29 年 10 月 21 日、22 日に平成 30 年度以降に全国の自治体で地域生活支援事業として実施される失語症者向け意思疎通支援者養成事業の「指導者養成研修会」が開催され、当士会の代表として参加しました。この研修会は失語症者に対する意思疎通支援者を養成するために必要な 必須科目 40 時間（意思疎通支援者として登録するために学修が義務付けられた科目と時間数）と選択科目 40 時間（支援業務を充実するための追加項目）の合計 80 時間の講義を 12 時間（2 日間）で行いました。ここでは指導者が講義や実習を行う上での留意点や配慮等がテキストとして配布され、47 名が修了、県に登録されました。今後も年 1 回、各都道府県 1～2 名の指導者養成研修を行っていく予定です。山梨県では平成 31 年から派遣事業を実施する方向で、平成 30 年度はまず、10 名程度の ST に向け、この研修会の伝達講習会を開催する予定です。

平成 29 年度秋期都道府県士会 会長会議報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 副会長 赤池 三紀子
(湯村温泉病院)

平成 29 年 11 月 11 日(土)に朝日生命大手町ビルにて都道府県士会 会長会議が開催されました。いつものスクール形式から 4 ブロックに分けた席順に変わり、見慣れた会長たちの顔を見ながら深浦会長の挨拶、各部・委員会からの報告・説明・質疑応答が行なわれました。要点は以下の通りです。

1. 会員情報提供システムのリニューアルを平成 30 年秋頃に実施予定。各施設から施設情報登録責任者(仮)を 1 名申請してもらい施設情報を登録する方式。会員個人からも新しい登録項目への情報を入力してもらうため、今後周知していく(総務部)。
2. 非日本語話者の ST ニーズ調査が終了。受入れに重要なポイントとして外国語の運用能力や相談する専門家の存在及び評価道具が挙げられた(国際部)。
3. 介護予防事業に関するパンフレットが年間 500 部まで無料配布可能(広報部)。
4. 基礎講座・専門講座・ポイント取得対象研修会の開催申請方法が変更となり、メールでの提出となった(生涯学習部)。
5. 地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業は、地域包括ケア 402 名(16 士会)、介護予防 414 名(16 士会)に修了証が発行された(介護保険部)。
6. 平成 30 年失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会は 10 月に予定、各士会からは 2 名の参加者が可能となる。この派遣事業が展開されるには、まず失語症者の推定値を出し、現状を伝えていくことが喫緊の課題として挙げられた(立石副会長)。

以上に掲げ切れなかった大きな流れに国際化や地域・社会情勢に合った ST の土壌づくりがありました。今年も当士会は協会と結束しながら事業展開してまいります。



第22回 山梨県失語症者のつどい

平成29年11月12日、大木記念ホールにて「第22回山梨県失語症者のつどい」が開催されました。当日は、友の会会員のみならず、ご家族の方も参加されました。

甲府城南病院 松本 英之

参加報告



今年度は、「言葉をこえて歌おうよ 心と心のハーモニー」をテーマに、コミュニケーションワークショップ、各失語症友の会の発表、甲州弁ラジオ体操、T-WAVE 合唱団による公演、よっちゃばれ踊り等の充実したプログラムが行われました。どのプログラムにおいても参加者全員の楽しそうな声や笑顔が会場全体に広がっており、同じ時間・空間を共有した喜びを感じました。

これまで、地域で暮らす失語症の方やご家族の方々と触れ合う機会はありませんでしたが、このような形で関わり続けていくことも、言語聴覚士の重要な役割だと改めて感じました。

今回、初めての実行委員という緊張もありましたが、皆と協力して1つの作品を作ったことや、何十年ぶりかに行ったラジオ体操等、私自身とても楽しかったですし、皆さんから大きなパワーをもらうことができました。来年度より山梨県言語聴覚士が運営する失語症友の会「ふじやま」も発足されます。来年以降もまた、参加したいと思います。

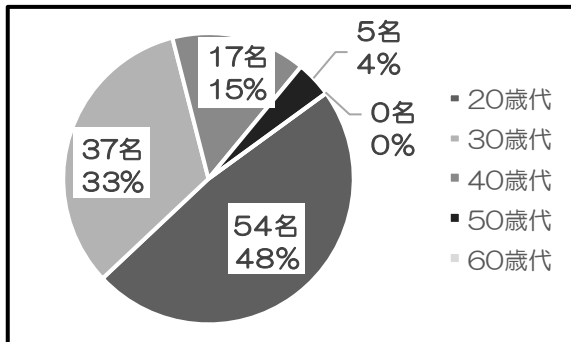


失語症友の会についての実態調査報告

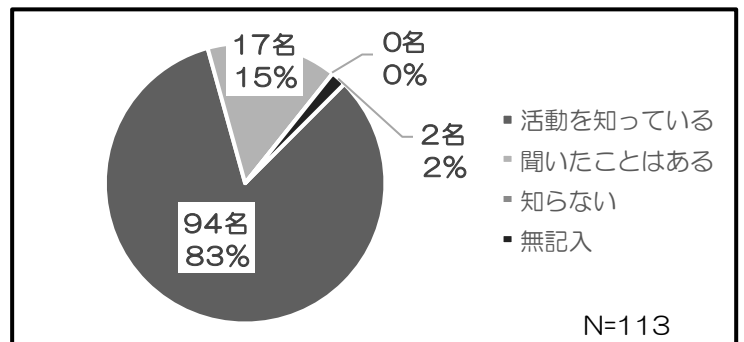
一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史
社会局 地域部

近年、地域包括ケアシステムの構築・推進が図られ、言語聴覚士も積極的な地域への関わりが求められています。その中で、失語症友の会はまさしく地域包括活動の一端を担っている活動と言えます。しかし、県内においては友の会会員の高齢化による会員の減少や診療報酬等に係る外来診療の打ち切り等により友の会の活動が年々縮小傾向にあります。このような状況の中、地域部では失語症友の会に関する実態調査を会員に対して実施しました。以下にその要点をまとめ、ご報告いたします。

平成29年7月時点で会員であった139名を対象にアンケート調査を行い113名より回答を得た（回収率81%）。回答者の内訳は20歳代と30歳代が91名（81%）であった（図1）。

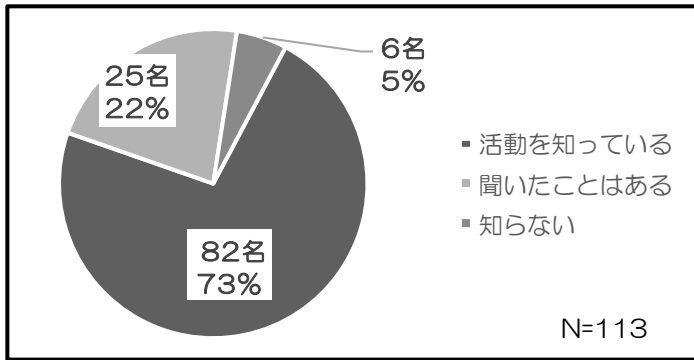


【図1】年代

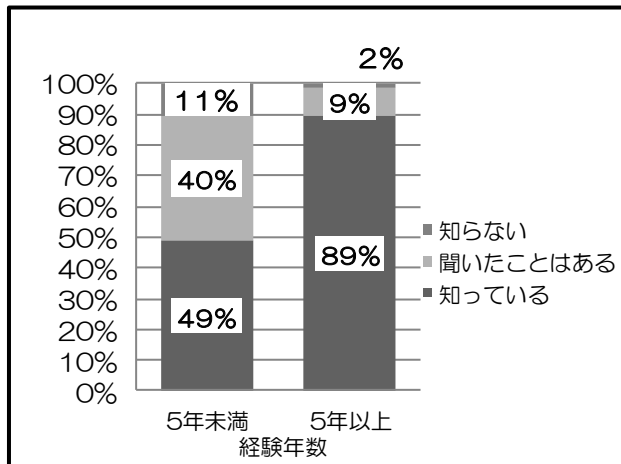


【図2】失語症友の会を知っていますか

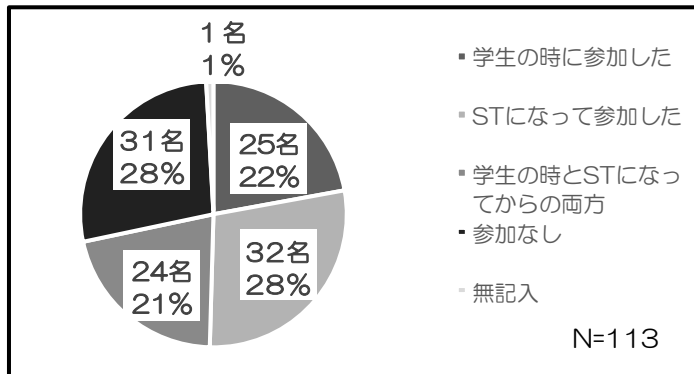
「失語症友の会の活動を知っていますか？」は「はい」94名（83%）、「聞いたことはある」17名（15%）であった（図2）。「つどいの活動を知っていますか？」には、「知っている」82名（73%）、「聞いたことはある」25名（22%）、「知らない」6名（5%）であった（図3）。また、「つどいの活動」においては臨床経験の浅い会員では約半数に周知されていない現状であった（図4）。



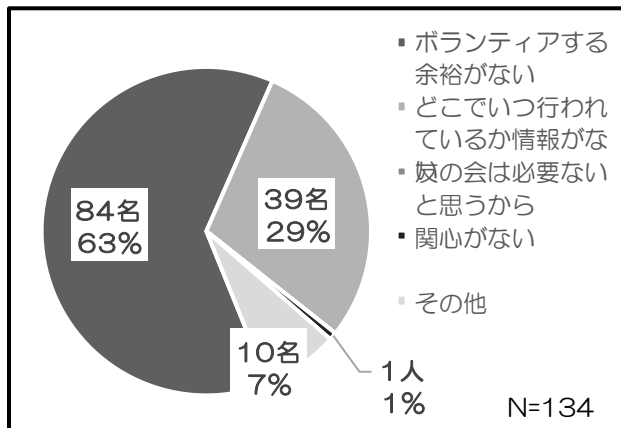
【図3】失語症者のつどいを知っていますか（全体）



【図4】失語症者のつどいを知っていますか（経験年数別）



【図5】失語症友の会への参加について



【図6】参加できない理由

「失語症友の会への参加について」は、「学生時に参加した」25名（22%）、「言語聴覚士になって参加した」32名（28%）、学生の時と言語聴覚士になってからの両方24名（21%）、「参加なし」31名（28%）であった（図5）。「友の会の定例会やつどいへ参加できない理由について（複数回答）」は「余裕がない」

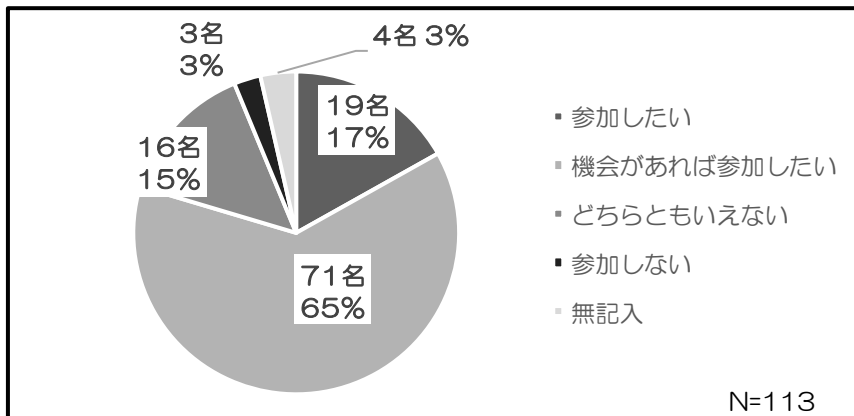
84名（63%）、「開催に関する情報がない」39名（29%）であった（図6）。「今後の参加について」は、「参加したい」19名（17%）、「機会があれば参加したい」71名（65%）、「どちらともいえない」16名（15%）、参加しない3名（2%）であった（図7）。

友の会やつどいへの参加に関しては、情報があれば活動に参加したいと思っている会員が8割以上いることも分かりました。

当会は地域で生活する失語症者の支援や言語聴覚士の人材育成、意思疎通支援事業の円滑な事業展開を見据え、2018年度より新たな試みとして失語症友の会「ふじやま」を設立し事業を開始します。今後は会員ひとりひとりの手で地域に戻られた失語症者を「元気」にし、そして県内の友の会の活性化に向けて努力していきたいと考えています。

末尾になりましたが、本調査への会員の皆様の御協力に感謝申し上げます。

今後とも、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



【図7】今後の参加について

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 失語症友の会「ふじやま」設立について

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史

失語症友の会は、心理的サポートや自立のための情報提供などピアカウンセリングとして、また地域で生活する失語症者と言語聴覚士の交流の場として重要な役割を果たしてきました。しかし、NPO法人全国失語症友の会連合会加盟の失語症友の会は、会員の高齢化、新入会員の減少などから1990年代に150団体ほどあった友の会が現在、100団体以下となっていると報告されています。

山梨県においても、年に一度県内の失語症友の会が一堂に集う山梨県失語症友の会連合会主催の「山梨県失語症者のつどい」（以下：つどい）が平成8年より開催されていますが、近年は当事者および家族の参加者が以前の三分の一以下に減り、活動を休止する失語症友の会もでてきています。当会は事業の一環として「つどい」への活動支援金の寄付、実行委員および当日ボランティアの派遣を行ってきましたが、「つどい」の活動が縮小傾向にある中、実行委員やボランティアとして派遣される会員も減少し、地域で生活する失語症者との関わりの機会が減少している現状にあります。

当会としては、失語症者の在宅生活を支える事業の強化と失語症者の地域における暮らしを支援できる人材育成を図り、職能団体として失語症友の会の運営に強力に関与する目的で、山梨県言語聴覚士会失語症友の会「ふじやま」を設立し、平成30年度より事業展開をすべく調整を行っています。当会が運営することにより、多くの言語聴覚士の関与が図られ、県内各所での定例会の開催、失語症カフェへの展開、意思疎通支援者やボランティアの養成も可能となり、既存の友の会に属している失語症者の参加も促進することで、地域で生活する失語症者の活動と参加、出番作りに努めていきたいと考えています。地域職能団体の友の会運営という新たな挑戦に多くの会員のご理解とご協力をお願いいたします。



失語症友の会「ふじやま」
ロゴマーク（案）

社会局地域部研修会

11月9日（木）、ぴゅあ総合にて社会局地域部主催の研修会「失語症友の会の支援について」が開催されました。この研修会は平成30年度に当会が設立、運営をしていく事業について会員へ説明する場として企画された研修会でした。

参加報告

湯村温泉病院 矢萩 智章



今回の研修会では、渡邊修先生、内山会長、赤池副会長、失語症当事者の方からご講演をいただきました。まず、失語症当事者のお話からは、コミュニケーションの不自由さに伴う生活場面での不都合さと社会参加制約がどのようなものか思いを馳せることができました。この中で、県士会が友の会活動を支援していくことは、地域で暮らす失語症の方にとって非常に重要であると再認識しました。失語症ばかりでなく障害に苦しむ患者様の退院後の生活をイメージした回復期リハビリをしっかりと行うためにも、友の会活動に今後積極的に参加していきたいと思いました。



「やまなし地域リハーケアの推進を考える会」研修会

平成 29 年 11 月 1 日（水）に山梨県立文学館にて「やまなし地域リハーケアの推進を考える会」が開催されました。当会員 41 名を含む 247 名の参加がありました。

参加報告

甲州リハビリテーション病院 元木 雄一郎

今回は「医療と介護の連携」というテーマで開催されました。内容としては私たちが普段退院前に行っているカンファレンスの実施というものでした。カンファレンスを客観的にみる機会が少なく、また自分の病院以外のカンファレンスを見る機会がなかったため大変貴重な研修内容でした。PT、OT、ST というリハ専門職にとっては当たり前の職種でも、介護支援専門員やその他の関わる職種からすると知らない場合があるため、それぞれの職種の説明の仕方等は大変勉強になりました。患者さんの身体機能、ADL、コミュニケーションなどの現在の状態や介助方法について必要な情報を分かりやすく伝えるというのがとても重要だと改めて感じました。そのためには相手に伝える技術や工夫が必要だと思います。今回の研修会を通して患者さんが安心して在宅生活を送るためにも医療と介護の連携はすごく重要であると改めて感じました。まずは患者さんの生活をコミュニケーションや食事という視点から支えられるように研修で学んだこと、感じたことを日々の業務へ活かしていきたいと思っています。



第 3 回学術講演会

平成 29 年 10 月 31 日（火）・11 月 20 日（月）と 2 日間にわたり第 3 回学術講演会がびゅあ総合にて開催されました。県外の ST や学生、理学療法士、作業療法士など他職種からの参加がありました。

参加報告

山梨リハビリテーション病院 櫻井 美紀

今回は、上伊那生協病院の長谷川和子先生による「口腔顔面領域の運動機能障害へのアプローチ～摂食嚥下・構音・表情の問題～」というテーマでのご講演でした。10 月 31 日の回では口腔顔面領域の運動機能障害の診方として、姿勢・運動についての基礎的な講義、11 月 20 日の回では、実技を交えての講義でした。普段、運動障害性構音障害の患者様に対するアプローチとして、頬・口唇・舌といったそれぞれの構音器官に分けたアプローチを中心に考えてしまうことが多いの



ですが、まずは準備的介入として、体幹・頭頸部の姿勢制御を評価し、介入していくことが重要とのことでした。骨盤の動きや肩甲帯の安定性、頭頸部の安定性と指向性を改善し、頭頸部が自由に動くようポジショニングをした上で、口腔顔面領域の運動機能へのアプローチを実践していきたいと思いました。また、姿勢制御について、PT や OT とのチームアプローチの重要性も感じました。今回学ばせて頂いたことを、今後の臨床に活かしていきたいと思っています。

理事会報告

平成 29 年度 第 5 回理事会議事録

日 時:平成 29 年 9 月 25 日(月)18 時 45 分～20 時 25 分

議 長:内山量史

出席理事:内山、赤池(三)、中村、赤池(洋)、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、元木、吉澤、河西

欠席理事:梶原、池神、和泉

<協議事項>

1. 症例検討会の ST 協会への申請は継続し、バイザー制度については今後の在り方も含め継続審議となった。
2. 「失語症全国大会 in いわて」協賛掲載広告について表記内容を一部修正し承認された。

<報告事項>

1. 第 2 回生涯学習プログラム基礎講座、第 2 回学術講演会、第 4 回新卒者研修会の開催が報告された。
2. 第 5 回甲信越在宅推進フォーラム第 5 回世話人会、第 2 回地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会、平成 29 年度第 3 回在宅医療チーム意見交換会への出席が報告された。
3. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会特別支援教育委員会の開催が報告された。
4. 地域支援事業等推進委員会より 8 月 30 日(水)に初期研修が終了し、10 名に修了証を発行したことが報告された。
5. 山梨地域リハケアの推進を考える会研修会が 11 月 1 日に文学館で開催されることが報告された。

平成 29 年度 第 6 回理事会議事録

日 時:平成 29 年 10 月 26 日(木)18 時 45 分～20 時 50 分

議 長:内山量史

出席理事:内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、和泉、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、元木、河西

欠席理事:中村、梶原、吉澤

<協議事項>

1. 日本発達障害者ネットワーク主催の平成 29 年度発達障害支援人材育成研修会(後期)を共催することが決定した。
2. 介護職場人材育成研修講師が小池理事・高橋理事に決定した。
3. 公益社団法人全国老人保健施設協会より依頼のあった介護の職場を守るための署名活動について、各病院施設へ協力を求めることとなった。
4. 平成 29 年度日本言語聴覚士協会代議員選挙が告示され、当会より 2 名選出することが承認された。
5. 設立 20 周年へ向けて、記念式典や記念誌について検討するための実行委員会を次年度立ち上げることとなった。

<報告事項>

1. 第 5 回新卒者研修会の開催が報告された。
2. いきいき山梨ねんりんピックへの参加報告が行なわれた。
3. 「失語症全国大会 in いわて」へのプログラム広告掲載の申込み、第 3 回地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会、山梨県民間病院協会 知事・副知事・県福祉保健部幹部との懇談会、3 土会意見交換会等への出席が報告された。
4. 山梨県訪問リハビリテーション委員会より平成 29 年度実務者研修会の開催報告が行なわれた。
5. 失語症者向け意思疎通指導者養成研修会の参加報告が行なわれた。

平成 29 年度 第 7 回理事会議事録

日 時:平成 29 年 11 月 17 日(金)18 時 44 分～20 時 33 分

議 長:内山量史

出席理事:内山、赤池(三)、中村、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、元木、吉澤、河西

欠席理事:梶原、和泉

<協議事項>

1. 次年度以降の症例検討会について、1)発表者は 3 年目までを中心とし、バイザーは 6 年目以上とする 2)経験に応じて到達レベルの設定の見直しを行う 3)バイザー向けの研修会を開催することが決定した。
2. 新規にビブスタップのユニフォームを購入することが決定した。山梨県失語症友の会「ふじやま」のロゴマークが決定した。
3. 県士会 NEWS40 号について企画案が一部修正され承認された。

<報告事項>

1. 第 3 回学術講演会、第 5 回新卒者研修会の開催が報告された。
2. 平成 29 年度第 2 回山梨県地域包括ケア推進協議会、第 4 回在宅医療チーム意見交換会、リハビリテーションのつどい、関東圏都県士会第 2 回会議、平成 29 年度秋期都道府県士会会長会議への出席が報告された。
3. 平成 29 年度地域部研修会、第 22 回山梨県失語症者のつどいの開催について報告された。
4. 第 5 回山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会運営委員会の開催が報告された。
5. ST 協会代議員に赤池副会長、中村副会長が立候補したことが報告された。

平成 29 年度 第 8 回理事会議事録

日 時:平成 29 年 12 月 22 日(金)18 時 40 分～20 時 00 分

議 長:内山量史

出席理事:内山、赤池(三)、中村、赤池(洋)、池神、和泉、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、吉澤、河西

欠席理事:梶原

<協議事項>

1. 代表者会議が平成 30 年 2 月 9 日(金)にベルクラシック甲府にて行われることが決定した。
2. 甲府市在宅医療・介護連携推進会議の担当者を変更することとなった。

<報告事項>

1. 実技研修会、第 4 回症例検討会、第 4 回小児領域勉強会、第 6 回新卒者研修会の開催が報告された。
2. 失語症者向け意思疎通支援者養成研修、平成 29 年度地域リハビリテーション従事者研修会について報告された。平成 29 年度地域包括ケア推進協議会介護予防リハビリテーション促進部会、甲府市在宅医療・介護連携推進会議 第 10 回相談体制構築ワーキンググループへの出席が報告された。
3. 平成 29 年度山梨県地域防災訓練、平成 29 年度 JRAT 関東ブロック会議について報告された。
4. 第 2 回合同学術大会についての報告が行なわれた。

場 所:春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

書 記:安富朋子、山田 徹、山田典子、坪井沙妃

議事録作成:河西祐子

《各局からのお知らせ》

事務局

＜総務部＞

- ・平成30年2月9日（金）にベルクラシック甲府にて代表者会議を開催します。
- ・会員動向（平成29年12月末現在）
正会員数 139名 賛助会員 6団体
所属変更：舟越あゆみ先生（自宅会員）
改 姓：小宮山（野村）友里先生
（甲州リハビリテーション病院）
- ・会員名簿記載事項に変更のあった方は「会員異動届」の提出をお願い致します。

＜財務部＞

- ・今年度の会費はほぼすべての方に納入していただきました。ご協力ありがとうございました。

学術局

昨年は学術局主催の講演会及び研修会にご参加いただきまして、ありがとうございました。予定通りに開催することができ、皆様のご協力に感謝致します。今後、開催予定の講演会、研修会は下記の通りです。皆様のご参加をお待ちしています。

＜学術部＞

第4回学術講演会

日 時：平成30年3月15日（金）18：30～

講 師：坂爪一幸先生（早稲田大学）

テーマ：「高次脳機能障害、発達障害、認知症にみる
障害の神経心理学的な理解と支援」

会 場：ぴゅあ総合 中研修室

＜研修部＞

第5回症例検討会

日 時：平成30年2月15日（木）18：15～

場 所：甲府市東公民館

発表者：市川麻衣先生（県立中央病院）

バイザー：赤池絢先生（甲州リハビリテーション病院）

スーパーバイザー：元木雄一郎先生

（甲州リハビリテーション病院）

発表者：土橋恭子先生（あけぼの医療福祉センター）

バイザー：飯塚周子先生（甲府共立診療所）

第5回小児領域勉強会

日 時：平成30年2月3日（土）14：30～

場 所：甲府共立診療所

内 容：症例検討会

＜教育部＞

第6回新卒者研修会（平成29年12月21日）をもって今年度の研修は終了致しました。

社会局

＜職能部＞

- ・平成29年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修会が10月21日、22日にTKP東京駅前カンファレンスセンターで開催され、赤池副会長が参加されました。
- ・平成29年度山梨県リハビリテーションのつどいが11月6日に甲府市総合市民会館で開催され、実行委員として吉澤理事が参加されました。また、リハビリ相談会には中村副会長、河西事務局長が参加されました。
- ・平成29年度秋期都道府県士会会長会議が11月11日に朝日生命大手町ビルで開催され、当士会代表として赤池副会長、協会代表として内山会長が出席されました。
- ・関東圏都県士会第2回会議が11月11日に八重洲サピアタワーで開催され、赤池副会長が出席されました。
- ・平成29年度地域リハビリテーション従事者研修会が12月6日にぴゅあ総合で開催され、参加人数は58名（ST2名）でした。
- ・その他にも関連団体や行政、地域との連携、協力に向けて県士会からは会長、副会長、理事、会員が参加、協力されました。

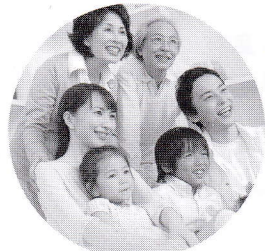
＜地域部＞

- ・平成29年度社会局地域部研修会が11月9日にぴゅあ総合で開催されました。「失語症友の会の支援について」と題しまして東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座教授の渡邊修先生、失語症当事者、当士会の内山会長、赤池副会長よりご講演をいただきました。参加人数は43名（学生2名）でした。
- ・「第22回山梨県失語症者のつどい」が11月12日に大木記念ホールで開催されました。参加人数は42名（友の会会員15名）でした。会員の皆様、ご協力ありがとうございました。今後の失語症友の会、失語症者のつどいへのご理解とご協力をお願い申し上げます。

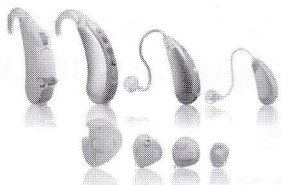
【代議員選挙について】

一般社団法人日本言語聴覚士協会 代議員選挙に当士会より赤池三紀子副会長、中村晴江副会長が立候補し、両名とも当選いたしました。

おかげさまで35周年



これからもやさしい聴こえのお手伝い
快適生活をサポートします



認定補聴器専門店

山梨リオン補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 山梨大学附属病院前

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。



Atos

Atos Medical Your voice

株式会社アトスメディカルジャパン

〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

HEALTH CARE FOOD
在宅 通信販売
Healthy Network



病院で使われている介護食を
ご家庭にお届けしています。

- ☑ 噛むこと、飲み込むことが苦手な方に
- ☑ 飲食時によくむせる方に
- ☑ 食の細い方に

やわらかさの程度や形態別に分類されたおかず、
とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載
されています。また、栄養指導で
役立つコラムも多数ご紹介して
います！

とろみ調整食品は
トロミパワースマイル
がオススメ！



カタログのご請求・お問い合わせは

株式会社ヘルシーネットワーク 〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3

0120-236-977 受付時間 9:00~17:00※日・祝除く

ヘルシーネットワーク 検索 <http://www.healthynetwork.co.jp>

かきまぜても離水しにくい新しいゼリー

まぜても ジュレ

従来のゼリーにはない特性を持った
リセットゲルになります

- クラッシュしても離水しにくい
- 再結着性(まとまり)がある
- よくかきまぜるととろみ状になる



foodcare
JAPAN

〒252-0143 神奈川県 相模原市 緑区橋本4-19-16 OMGビル
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444



おいしく、たのしく、嚥下リハビリのお手伝い

摂食嚥下リハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

<p>毎日違う味が楽しめる 10種類の味</p> <p>インジョイゼリー</p> <p>プレーン いちご・ブルーベリー チョコレート みずみず味 バナナ味 さす 抹茶 スイートポテト味 りんご味</p>	<p>個別の栄養補給に適した 食べきりサイズ</p> <p>インジョイカップゼリー</p> <p>いちご 2個 キャラメル味 みずみず味 マンゴ味</p>	<p>無理せず食べられる40g</p> <p>インジョイ ハイカロリーゼリー</p> <p>りんご味 もも味</p>	<p>トロミの質の良さとやさしさを実現</p> <p>つりんこ</p> <p>りんご味 みずみず味 バナナ味</p>
--	--	---	---

他にもおいしく栄養が摂れる、豊富なラインナップがそろっています。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。 0120-52-0050 クリニコ 検索 <http://www.clinico.co.jp> 株式会社クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-Sal



Pepti-sal(ペプチサル)とは、
「Peptide(ペプチド)」+
「Saliva(唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、
お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方のケアにもおすすめです。

- ペプチド
- ラクト
- キシリ
- 保湿成分
- pH
- 洗浄力
- アルコール
- パラベン

2014年12月発売

T&K ティーアンドケー株式会社 0120-555-350 www.comfort-tk.co.jp

編集後記

昨年12月に開催された三士会合同学術会議では述べ人数680名の参加があり、活発な意見交換がなされました。自分自身の日々の臨床を考えさせられる2日間であったと思います。今年は介護・医療診療報酬同時改定の年でもあり、当会としては失語症友の会「ふじやま」の設立・運営、役員選挙と大きな変化がみられる1年となるでしょう。今年の干支は「戌(いぬ)」です。「戌」の字には「滅」に繋がり、滅びや朽ちるという意味ではなく『新しい命を守る』という意味があるそうです(諸説あります)。新しいことに挑戦する当会の情報をタイムリーに発信できるよう今後も努力して参りたいと思います。

(佐々木 蘭子)

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

- <発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会
- <発行人> 内山 量 史
- <編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集・HP管理部

- | | |
|-------------------|----------------|
| 石 和 温 泉 病 院 | 高 橋 正 和 |
| 石 和 共 立 病 院 | 渡 邊 千 裕 |
| 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 | 佐々木 蘭子・小 澤 しず香 |
| 恵 信 甲 府 病 院 | 藤 原 裕 己 |
| 甲州リハビリテーション病院 | 間 宮 愛 貴 |
| 甲 府 城 南 病 院 | 中 山 菜 葉 |
| 国立病院機構甲府病院 | 小 松 富 美 子 |
| 湯 村 温 泉 病 院 | 岡 大 樹 |

- <事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
- <発行日> 2018年2月1日 第40刊